



# 大好き かたびら

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/katabira>

横浜市立帷子小学校  
学校だよりNo.5 8・9月号  
平成30年8月27日  
横浜市保土ヶ谷区  
川辺町65-1  
Tel.045-335-5896

甲子園からカルガモ運動会へ

校長 齋藤容二

夏休みが終わり、前期後半が始まりました。年々夏の暑さや集中豪雨の激しさが増し、「異常な」という形容が「当たり前」になっていくのではないかと、という恐れさえ感じてしまう夏でした。皆様はお変わりなくお過ごしでしょうか。暦の上では秋とはいえ、日差しは強く、健康管理には十分注意していただければと思います。

夏の風物詩とも言われる高校野球夏の甲子園大会は、今年100回目の記念大会でした。かつての試合や選手が改めて大きく取り上げられ懐かしさを感じたり、激闘の様子に胸を揺さぶられたりした方も多くいらしたと思います。私自身小学生の時は野球少年でしたので、今でもテレビで試合を見ますが、歳を重ねるごとに少し引いた視点で見ようになっています。この、夏の甲子園大会に関係して、学校や家庭での教育にも様々な点でつながっていると感じていることがあるので、私見ですが書きたいと思います。

## ○選手や指導者の変化

以前は、歯を食いしばってプレーする姿、もっと言えば悲壮感にも似た表情の選手が多かったのですが、最近は劣勢で厳しい状況でも笑顔でいる選手や指導者が増えました。「失敗したらどうしよう…」と考えるのではなく、「自分(たち)ならできる」と前向きに考えることで、萎縮せずにもっている力を出し切ることができるのでしょうか。また、自ら「プレーを楽しもう」という姿勢も見聞きされます。指導者から見ても、威圧するより励ますことの方が効果が表れるのでしょうか。

## ○酷暑の中で行うこと

あきらめずに全力でプレーすることで見ている人に大きな感動を与えることは確かですが、近年の酷暑を考えると一つ間違えば健康を害したり命にかかわったりします。現在は水分補給が絶対必要であることや休養の大切さ、効率的な練習の効果もわかっており、運営にも改善がなされています。しかし今でも延長戦や何試合も「一人で投げきった」ことが「善」であるかのような報道、考え方があるようです。成長過程である高校生ですので、将来を含めての健康を考え、ルール改善を図っていかれないだろうかと思えます。

## ○どのスポーツ、分野でも

「熱戦」は甲子園だけでしか行われていなかったのでしょうか。夏休み期間中、高校総合体育大会(インターハイ)が行われていましたが、報道での扱いは微々たるものでした。同じ、「高校日本一」であれば野球も他のスポーツでも同じ価値、扱いであるべきですが、残念ながら現状は違います。先日のテレビでは「俳句甲子園」という俳句創作の高校生大会が報道されていましたが、これとて、扱いの大きさは比べものにならないほど違っていました。メディア(報道)、つまり大人の意識、取り上げ方の違いが、受け取る側の認識の違いを作っているといえます。

大人自身熱が入れば入るほど、大切なことが見えなくなり、一面だけの評価をしてしまうこともあるかもしれません。あくまで高校生の部活動です。多くのことや結果ばかりを求めてしまうこと(勝利至上主義)での弊害も出てきます。「これまで〜だったから」という考え方は、時に社会の変化、人々の考え方の変化と合わなくなってしまうこともあります。教育に携わる者としては、広い視野、公平性、一人一人への配慮、そして自己改善の意識などを大切にしていきたい、と改めて考えています。

夏休み期間中、学校の水泳教室に毎日参加し、自分の力を高める努力をしていた子どもたちが大勢いました。そして区や市の水泳大会に参加して、自己ベスト記録を出した子もいました。またそれ以外にも、地域のクラブチームや所属団体に練習に励み、試合や発表をがんばった子や、目標をもって塾や教室に通い、自分の力を高めることに努力した子、自分一人の力でこつこつと研究や制作に取り組んだ子などいたことでしょう。どの子どもの活動、取組もそれぞれに同じだけの価値があります。普段から子どもたちには、「目標をもって努力しよう」「自分のよいところ、友達のよいところをたくさん見つけよう」と話しています。子どもたちがそれらの姿勢を身に付け、できるようになるためには、何よりも大人自身の姿勢、励まし、受け止めなどが必要となるでしょう。大人次第で子どもたちの意欲、姿勢、認識は変わってきます。大人の責任は重大です。

9月末にはカルガモ運動会が予定されています。全校で取り組む大きな行事ですが、子どもによっては得意不得意があることでしょう。結果だけにとらわれるのではなく、安全面での配慮を行い、どの子も目標をもって取り組み、自分らしさを発揮していけるように努めていきます。ご理解・ご協力・ご声援を、よろしくお願いいたします。